

沼津市

明治史料館通信

2008.1.25 (季刊 年4回発行) Vol. 23 No. 4 通巻第92号



大正10年(1921)10月8日徳川家達・家正送別会での写真(『写真通信』第93号、1921年11月1日)
前列右から徳川家正夫人、徳川家達、家正、令嬢、家達夫人。後列右は大森鐘一、中央が江原素六。

江原素六とその周辺(47)

大正十年の徳川家達送別会

幼い日の明治初年、静岡藩主であった徳川家達は、後年は貴族院議長を長くつとめ、政界で活躍することになった。大正一〇年(一九二一)、五九歳のときには、アメリカの主唱により軍縮や中国・太平洋問題を解決するために開かれたワシントン会議に全権委員として派遣されているが、上の写真はその送別会での記念撮影である。

一〇月八日午後二時から東京神田の如水会館で開かれたこの送別会は、同方会・葵会・旧交会・静岡育英会の旧幕臣関係四団体が連合して開催したものであった。約四三〇人が参集し、会場は立錫の余地がないほどであった。講談・手品などの余興の後、同方会会長江原素六が代表として送別の辞を述べ、それに対し家達が答辞を述べた。万歳三唱の後、茶話会に移り、六時頃には散会したという。開催通知によれば、会費は五円、男子の服装は洋服もしくは羽織袴と指定されていた(『同方会誌』五一号)。

家達は一〇月一五日出航、翌年一月三〇日に帰国した。外交官であった息子家

正はイギリス大使館に赴任するついでに父に同行した。

旧幕臣・沼津兵学校出身の衆議院議員(当時無所属)島田三郎は、ワシントン会議全権委員の人選について、「加藤幣原の両氏は予定のプログラムで別に不思議でもないが徳川議長を担ぎ出すに至つては寧ろ原首相の心理状態を疑はざるを得ない若し島田三郎一個の立場から言へば徳川議長は此の任命を辞退すべきではなかつたらうかと思ふ」と評し、自国の立場のみに拘泥することなく世界の大勢を知ること、国民輿論を正直に主張すること、正義人道のため東洋の平和を確保することの重要性を指摘し(『読売新聞』大正10・9・29)政治的立場を異にする立憲政友会の原敬首相を批判した。ワシントン会議の結果結ばれた諸条約により、日本は対米協調路線をとることとなった。しかし、大陸への軍事的進出をはかる軍部などからは批判が生じ、やがてワシントン体制打破を主張する形で昭和の軍国主義が台頭することになる。

(樋口雄彦)

シリーズ
沼津兵学校とその人材

83

樋口一葉と沼津兵学校に連なる人びと

樋口一葉(一八七二〜九六)が旧幕臣の娘であったことはよく知られている。父樋口則義は維新後には東京で新政府に出仕したので、静岡藩とは無関係である。しかし、一葉が直接・間接に関わりを持った人々の中には沼津兵学校に連なる人々が何人かいる。以下、それらの事柄について述べてみたい。

1 三宅花圃と父田辺太一

一葉が和歌を学んだ中島歌子の塾・萩の舎の先輩だったのが田辺龍子(号花圃、後に三宅雪嶺と結婚)である。四歳年長、かつ女流作家としても先輩であり、『藪の鶯』を刊行し、一葉に刺激を与えた。

元沼津兵学校教授だった太一は娘の作品の清書を手伝った。

花圃は後年自分が紹介したと言っているが、二五年八月四日付花圃宛一葉書簡には、「お父様にも御母様にも御礼よろしく」云々とあり、実際には花圃の依頼により太一が、一葉の作品を『都の花』に

掲載することについて中根香亭へ口添えたものと思われる。

なお、花圃の従弟である田辺朔郎は沼津兵学校附属小学校生徒出身であったが、その姉鑑子も萩の舎の門下生だった。彼女は建築家・工学博士片山東熊に嫁いだ。

2 江崎牧子と父乙骨太郎乙

牧子は、沼津兵学校で英語を教えた乙骨太郎乙の長女で、明治三年九月沼津の生まれである。父親同士が親しかったので、花圃とは親友であり、萩の舎でも同門で、一葉と初対面のときもいっしょであった。宮内省御料局技師江崎政忠と結婚した。

英文学者となった太郎乙の甥上田敏は、明治二八年五月七日一葉を訪ねたが、一葉は彼が牧子の従弟であると聞き、「いとしたり生まれぬ」と日記に記している。

3 島田政子

一葉の小説「我から」の主人公のモデルとされる。横浜の商人島

田豊寛の娘で、沼津兵学校資業生出身の政治家島田三郎(旧姓鈴木)の妻である。萩の舎に通っていた。不倫問題から二三年(一八九〇)に離婚した。

4 中根香亭

中根香亭(淑)は元沼津兵学校教授。田辺花圃の仲介により、一葉の「うもれ木」を、自分が編集発行人をつとめる雑誌『都の花』(金港堂発行)に掲載した。花圃の一葉宛書簡には、「中根氏へたのみ金港堂より少なくとも五十ページ位のもの一冊こしらへば如何かと存じ候」とある。花圃の父田辺太一と中根とは、沼津での同僚時代を通じて、乙骨太郎乙も含め漢詩仲間であった。ただし、一葉と面識があったかどうかはわからない。

5 二人の西村熊次郎

一葉の父樋口則義の幼友達で、則義同様甲州の農民から幕臣になった上野兵蔵(一八三二〜一九〇三)という人物がいる。彼は、則義の弟という名目で御家人の家を継ぎ、西村熊次郎と名乗った。慶応三年時点では幕府陸軍の撤兵に属した。翌年同家を離縁となり、

旗本原田市三郎（川路聖謨の孫）に用人として仕え、その後は大蔵省の官吏となった。樋口家とは維新後も交流が続ぎ、一葉も彼を伯父上様と呼んだ。

実は、同時期もう一人の幕臣西村熊次郎がいた。中根香亭の義弟（妻の弟）にあたり、沼津兵学校第四期資業生出身で、東京外国語学校などで教鞭をとった西村正立（旧名熊次郎、一八四三〜一九二二）である。中根には跡継ぎがなかったため、彼が遺した資料は西村家に伝来した。残念ながら現在



上 江崎牧子と夫政忠
(永井菊枝氏所蔵)

は所在不明となっているが、西村家には樋口一葉の書簡が残っているという（たぶん中根香亭宛の）。筆者はそのことを聞き、西村正立と上野兵蔵とを同一人物ではないかと勘違いしたことがあった。しかし、右に述べたごとく全くの別人である。

6 三田葆光とその妹

葆光は旧幕臣の歌人で、静岡藩時代には静岡学問所の和学教授。沼津兵学校資業生三田佑の父でもある。一葉は師中島歌子とともに参加した歌会で葆光と顔を合わせ

左 田邊太一と三宅雪嶺
右 三宅花圃、田邊大正
上より三宅花圃、田邊大正の
蓮舟、三宅雪嶺、正月花
元年(1912)正月花圃
箱書きがある。

たことがある（二五年二月二日）。また、一葉日記によれば、葆光の妹で、佑の叔母にあたる女性（一八三〇〜一九一四、戒名真性院妙常日道大姉）は、二五年二月二七日に萩の舎に入門している。彼女の夫三田弥吉（務本、一八二七〜一九〇七）は婿養子で、幕末に外国奉行支配役や神奈川奉行支配調役、維新後神奈川県准大属・大蔵省出納寮大属・同省出納局一等属などをつとめた人であった。

7 水野忠敬とその娘銚子

沼津兵学校関係人物ではないが、ついでに紹介しておきたい。最後の沼津藩主で、元菊間藩主の子爵水野忠敬（一八五一〜一九〇七）は歌人であり、宮内省に出仕、御歌所参候をつとめ、萩の舎にも出

入りした。一葉とも当然面識があった。一葉の日記・二五年三月五日条に、忠敬が菊間神社への奉納和歌を募ったことが記されているが、『いかきの松』（明治二四年四月・上総菊間松翁稲荷社に備る歌）という活版印刷の歌集が残されており、その中には、旧家臣たちから寄せられた和歌のほか、忠敬の歌人としての人脈から一葉の師でもある中島歌子・和田重雄らの詠歌も載っている。また、忠敬の娘銚子（後に旧八戸藩・子爵南部利克夫人、一八七七〜一九五二）は萩の舎で一葉と同門であり、一葉日記にも何箇所かに登場する。

〔参考文献〕『全集樋口一葉 日記編』（一九九六年、小学館）、『全集樋口一葉 別巻一葉伝説』（一九九六年、小学館）、『一葉資料目録』（二〇〇四年、台東区立一葉記念館）、上野錦一『祖父の覚書』（一九九四年、私家版）、山崎栄作『三田花朝尼著 箱館日記』（一九九七年、私家版）、『金沢文庫古文書 第十七輯 依田家文書』（一九六一年、金沢県立金沢文庫）

（樋口雄彦）

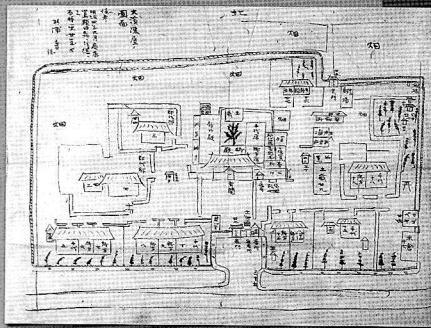
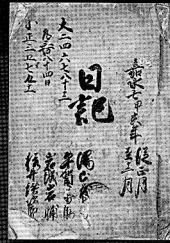


平成十九年度第二回企画展



愛知県にあった沼津藩領

大浜陣屋の沿革



平成二十年二月二日(土)～三月二日(日)

歴史講演会「沼津藩大浜領の沿革」

日時 平成20年2月16日(土) 13時00分～15時00分
 講師 豆田 誠路氏 (碧南市教育委員会 学芸員)
 会場 明治史料館 2階講座室
 参加費 無料
 申込 平成20年2月2日(土) 9時より
 電話または直接 (先着100人)

ギャラリートーク

日時 平成20年2月9日(土)、23日(土) 11時から
 内容 展示会場で学芸員が展示解説します
 事前のお申込み、参加費は不要です
 (観覧料は必要です)

お知らせ欄

◎企画展「愛知県にあった沼津藩領 ～大浜陣屋の沿革～」の開催

江戸時代後期の安永六年(一七七七)から明治維新まで、沼津藩水野家が沼津地域の多くを領有していました。沼津藩が成立する前、水野忠友が陣屋を構えて立藩したのが大浜(現愛知県碧南市)でした。沼津に移り、明治維新で菊間(現千葉県市原市)に移封された後も、廃藩置県まで水野家が領有した、水野家にとって重要な領地でした。本展では、館蔵資料に加え、大浜などに残された貴重な資料を展示し、沼津藩(菊間藩)大浜領の沿革を紹介します。

〈主な展示資料〉大浜陣屋絵図・陣屋日記・陣笠・沼津城の鬼瓦・菊間藩管内絵図・服部純の書など

沼津市明治史料館通信 第92号

編集 沼津市明治史料館
 発行

〒410-0051 沼津市西熊堂三七二-1
 電話 〇五五-九二三-三三三五
 FAX 〇五五-九二五-三〇一八
<http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm>